

とうかいグッドトイ委員会 おもちゃ通信

2019年
4月号



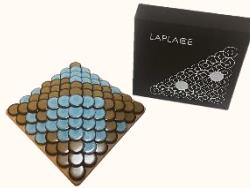
ホームページ: <http://toukaigoodtoy.web.fc2.com/>

おもちゃ通信は会員同士の情報共有とつながりづくりを目的として発行する月刊通信です(^O^)

こんなおもちゃを見つけました

多治見発ボードゲーム「モザイク」

私内山の故郷である美濃焼のまち多治見は陶磁器だけでなく、タイル産業も盛んな地域ですが、そんな多治見で美濃焼タイルを使用した「モザイク」という名のボードゲームが発売されました。このボードゲームは「たじみビジネスプランコンテスト」でグランプリをとり、新聞にも掲載されました。ゲームとしては立体的な囲碁といった感じでしょうか。タイルを徐々に積み上げていくととてもきれいなオブジェになっていきます。また遊び方を変えればオセロ遊びもできそうです。このゲームは現在多治見地域でしかまだ販売されておりませんが、地場産業であるタイルを活用している玩具として、話題になりそうですね。タイルの模様は6種類。カラーバリエーションが多いのも珍しいです。価格は6,000円程度。このようなご当地玩具が沢山生まれてくると面白いですね。



おもちゃエッセイ12

「おもちゃ」という単語

福祉の仕事をしている私にとって一番聞かれて説明に困るのが「福祉って何？」という質問。それを「子どもにもわかるように」と言われるとさらにハードルがあがる。何故ならあまりにも対象領域が広いからだ。だから私はいつもこのように答えている。「だんのらしの中であわせを感じられる環境を作って行くことです」と。では、「おもちゃって何？」と聞かれたらどう説明したら良いのだろうか？そんな素朴な疑問から語源を調べてみた。何のことはない、「手に持って遊ぶもの」という言葉が略された結果の産物だった。「持つ遊び」⇒「もちやそび」⇒「もちや」⇒「おもちゃ」。「遊び道具」＝「おもちゃ」というならば人が遊びに使った道具はすべておもちゃということになる。福祉と同じように何と領域が広いことか。3文字ながらもおもちゃという単語は奥深く、便利な単語である。(K.U)



★角さんの今月のゲーム

【おさんぽギャモン】

メーカー：日本バックギャモン協会 プレイ人数2人
対象：8歳～ プレイ時間15分

4月は始まりの季節ということで、まだ発売されていない春の注目作を紹介します。「おさんぽギャモン」は日本バックギャモン協会が制作した、初めてバックギャモンやる人にうってつけのゲームです。距離がちょっと短くなりコマがペンギンに変わっています。

方向が一方方向になりとてもわかりやすい！それでいてバックギャモンの白熱さは変わらずです！先行体験してきましたがとてもオススメです！



✂ 児童館活動ア・ラ・カルト(18) 熱田児童館の『作って遊ぼう』

毎回後ろ髪を引かれる思いで帰る父親がいました。お話をする機会がなく、3月最後となりました。お子さんは年長の男の子でクラブではとても製作に入るまで時間が必要なお子さんでした。2、3月は取りかかりが早く、自ら絵を描き作りあげました。このことを父親に伝えると、父親のカバンの中から「男の子のほめ方」というタイトルの本が入っていました。どうやら父親も子どもへの接し方に悩んでいたようです。(H.E)

【編集後記】晴は別れの季節でもあり、出会いの季節でもあります。今年度も新しい会員がたくさん入ってくれるといいな～と。今年度のとうかいは仲間集めに力を入れていきます、この通信も一役買えればよいのですが。只今内容の充実を検討中です。 b y うちやま